

失調症中心であると推定された。また、新聞社別にみると、読売新聞 377 件、毎日新聞 345 件、朝日新聞 269 件、産経新聞 32 件で、新聞社による違いがあることも明らかとなった。

比較検討する意味で、「メンタルヘルス（こころの健康）」「ストレス」「認知症(痴呆)」及び「生活習慣病」「癌(がん)」「心(臓)疾患」「糖尿病」をキーワードとして記事総数を検索し比較検討した。「メンタルヘルス（こころの健康）」137 件、「ストレス」904 件、「認知症(痴呆)」1,145 件で、「精神障害」448 件に比較し、認知症(痴呆)、ストレスはかなり多かった。

また、「がん」「糖尿病」「生活習慣病」「心臓疾患」をキーワードに検索したところ、総数 9,205 件、「がん」8,270 件、「糖尿病」505 件、「生活習慣病」374 件、「心臓疾患」56 件とさらに格段の違いを認めた。

なお、特集記事及び当事者活動記事の内容の分析は平成 18 年度の研究として行なう予定である。

4) 先行研究のレビュー

(1) 平成 14 年度厚生科学研究「障害者の社会的理解の促進及び自己決定の支援、自己選択の支援等の権利擁護に関する研究」(主任研究者 大熊由紀子)

平成 14 年 12 月 24 日に閣議決定された、新障害者基本計画において、「障害者本人の意向を尊重し、入所者、入院者の地域生活への移行を促進する。『障害者は施設』という認識を改めるために、保護者、関係者及び市民の地域生活への理解を促進する」とした。この実現に寄与するために実施された研究である。この研究の一環として、マスメディアの障害者報道について、その問題点と今後の方向性が検討された。

この中で、原昌平（読売新聞大阪本社科学部）は「社会問題として報道量をふやす」

として、「とりわけ量的にこの領域の報道を増やすことが大切だ。そのすることで取材する記者が知識を積み重ねるし、直接取材にかかわらない記者や編集幹部への教育にもなる。(中略)一般日刊紙に限って言えば、『量を増やせば、質はあとからついてくる、だんだんレベルがあがっていく』と筆者は体験的に考えている。」と述べていた。また、「日常の姿と苦しみを伝える」として、「地域で暮らす精神障害者の日常生活、人間としてのリアルな姿をいかに伝えるかが、偏見解消のために非常に大切なテーマと考える。(中略)偏見という心理・感情レベルの問題に立ち向かうには、知識と論理だけでは不十分である。受け手の側の心理や感情、すなわち気持ちを動かすことが必要なのだ。

(中略)差別される側の苦しみや悩みの体験を、具体的な形で読んだり、見聞きしたりすれば、差別に対する怒りの気持ちが自然にわいてくる。そうした気持ちが、差別や偏見の解消に一番効果的である。」としていた。

また、和田公一（朝日新聞科学医療部）は、「この間過剰報道という批判はたくさん受けた。しかしながら、私は、精神医療の記事について言えば、あまりに書かれていないことのほうが問題だと思っている。新聞、テレビ、週刊誌などで医療や健康に関する記事を見ない日はない。がん、糖尿病、脳血管障害、心疾患などについては日常的に『医療のページ』などで最先端の治療法や患者会の活動などが報道されている。しかしながら、精神科医療についてこのような記事が紹介されることはほとんどない。私の過去の記事にしても、ほとんどが精神科医療の『事件』や『不祥事』に関する記事であって、一般的な精神科医療の記事というのはほとんどないのが現状だ。マスコミ報道における精神障害者に対する差別・偏見の解消を言うのであれば、まずは足元のここ

からはじめようと考えている。」と述べていた。

(2) 日本学術会議・精神医学研究連絡委員会報告書「こころのバリアフリーを目指してー精神疾患・精神障害の正しい知識の普及のためにー」(平成17年9月30日)

日本学術会議・精神医学研究連絡委員会は第19期(2003.10~2005.9)の活動方針として、障害者への誤解・偏見の是正を取り上げることを決定した。この研究は、この問題の実態を把握し、それを是正するためにとるべき方策を検討し、提案するために、統合失調症を対象に検討した結果である。報告書の中に、精神障害に関する出版、報道機関へのアンケート調査結果が示された。

この調査は、放送局(テレビ局、ラジオ局)148社、新聞社106社、出版社37社、計291社を対象に郵送で実施され、回収数69件(23.7%)であった。調査内容には、実名報道の是非、精神科の治療歴報道の是非が含まれていた。実名報道の基本的な考えについては、できるだけ避けるべきである28社(40.6%)、個別の判断が重要である40社(58.0%)であった。実際の実名報道については、精神障害者であることが確定的な場合実名を控える20社(29.0%)、精神障害者である可能性がある場合実名を控える33社(47.8%)、ニュースの重要性を考慮し実名報道するか検討する19社(27.5%)であった。また、治療歴報道については、報道してよい7社(10.1%)、犯罪と精神障害が関係なければ報道すべきでない37社(53.6%)、個別の事例ごとに検討すべきである27社(39.1%)であった。以上より、報道機関の考え方には大きな開きがあることが明らかとなった。

D. 考察

1) 精神保健福祉センター質問紙調査

ほとんどの精神保健福祉センターにおいて、当事者による普及啓発活動が積極的に行われていた。また、当事者も、統合失調症などを中心とした精神障害だけではなく、「ひきこもり」、アスペルガー症候群やADHD等の「発達障害」、「依存」等も含まれ、当事者活動による普及啓発はさまざまな場面に広がりを見せていた。

当事者の役割は、体験発表・トークがもっとも多く、講師やパネラー、グループ討議への参加などが見られた。当事者による普及啓発のもっとも大きな効果は、当事者自身の体験談によるところがある。また、作品展示、製品販売、模擬店などは複数回答が多く、これらはイベント参加のものが多く、多くの媒体を通しての障害者への理解を求めるものである。これらのイベント参加は、以前からも見られていたが、近年では、当事者自身が登場することが多く、普及啓発に加え、当事者自身の自信にもつながっているものと考えられる。これらのイベント活動は、あまり組織化されていない「ひきこもり」「発達障害」「依存」ではあまり見られなかった。

当事者参加に対する参加者(当事者以外)の反応や当事者自身の意見は、良好であり、今後も参加したいとの意見が多かった。当事者は、参加することにより多くの人に知ってもらったということで、良かったと回答しているものが多く、普及啓発に対して、当事者自身がその効果を上げている。

以上述べたように、当事者の参加は当事者にとっても参加者にとっても概ね好意的に受け止められているが、「マスメディアの取材により問題となったこと」もいくつか指摘されている。この点は、現在整理検討中であり、次年度において問題を整理して、そのあり方について検討していくこととし

たい。

2) 当事者へのインタビュー

インタビューの結果、マスメディアに望むこととして、精神障害についてできるだけ取り上げてほしい、正しく理解してほしいなどの意見が多かった。また、「子どもたちが素敵だと思う」などもっとポジティブな取り上げ方を望む意見もあった。その一方で、マスメディアに名前や顔が出ることについては、抵抗感の少ない人、強い人などひとりひとり異なっており、一律に考えるのは難しく、ひとりひとりの意見を尊重しつつ、自発的かつ積極的な当事者自身による普及啓発のあり方を考えていくことが必要と思われる。

3) 新聞記事のキーワード検索

内科疾患に比べると精神疾患は圧倒的に記事が少ないことが明らかとなった。最も多かったのは「がん(癌)」で、8,270件と抜き出ていた。次に「認知症(痴呆)」1,145件「糖尿病」505件と続いた。精神疾患で最も多いのは「うつ病」251件であったが、糖尿病の1/2でしかなかった。「統合失調症」はわずかに90件で、「薬物依存」94件よりも少なかった。これに対し、「ストレス」904件と「精神障害」448件は、疾患名ではないが比較的多かった。

すなわち、記事の絶対量が少ないこと、精神疾患名としては「うつ病」を除きほとんど取り上げられていないこと、「ストレス」という予防的な視点や「精神障害」という障害者としての捉え方をした記事が多いことが明らかとなった。このことは、ストレスと精神疾患が必ずしも結びついていないこと、回復可能性のある精神疾患という捉え方よりも回復困難な「障害者」としての捉え方の方が強いことを示していると推察

される。

今後は記事の絶対量を増やすこと、ストレスと精神疾患との関連性、精神疾患の回復可能性なども視野に入れた記事が求められると考える。

4) 先行研究のレビュー

マスメディアと精神障害とのかかわりという点、これまでその多くが事件報道のあり方という観点からのみ論じられていたのではないかと思われる。しかし、先行研究においては、今なおマスメディアの考え方は様々で一概に論じることはできないこと、事件報道以外の記事が極めて少ないことなどが明らかとなっている。もちろん今後も事件報道のあり方は常に慎重でなければならないが、本研究では、精神疾患や精神疾患とストレスとの関係についてどう伝えるか、精神障害者の日常生活や社会生活における悩みや喜びなど自然な姿をどう伝えるかという観点から、ガイドラインについて検討したいと考えている。このような内容の報道が増えることで、結果的に事件報道のあり方も適正なものになっていくのではないかと考える。

E. 結論

ほとんどの精神保健福祉センターにおいて、当事者による普及啓発活動がすでに積極的に行われていた。当事者参加に対する参加者（当事者以外）の反応や当事者自身の意見は、概ね良好であり、今後も参加したいとの意見が多かった。当事者は、参加することにより多くの人に知ってもらったということで、良かったと回答しているものが多く、普及啓発に対して、当事者自身がその効果を上げていた。

当事者へのインタビューでは、積極的に取り上げてほしいという意見とともに、あまり知られたくないという意見も聞かれた。

一律に考えるのは難しく、ひとりひとりの意見を尊重しつつ、自発的かつ積極的な当事者自身による普及啓発のあり方を考えていくことが必要であることが示された。

新聞記事のキーワードによる検索では、精神疾患に関する記事の絶対量が少ないこと、精神疾患名としては「うつ病」を除きほとんど取り上げられていないこと、「ストレス」という予防的な視点や「精神障害」という障害者としての捉え方をした記事が多いことが明らかとなった。今後は記事の絶対量を増やすこと、ストレスと精神疾患との関連性、精神疾患の回復可能性なども視野に入れた記事が求められると考える。

先行研究の結果を踏まえ、本研究では、精神疾患や精神疾患とストレスとの関係についてどう伝えるか、精神障害者の日常生活や社会生活における悩みや喜びなど自然な姿をどう伝えるかという観点から、ガイドラインについて検討することとしたい。このような内容の報道が増えることで、結果的に事件報道のあり方も適正なものになっていくのではないかと考える。

F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

新聞に連載された記事・特集記事

(資料)

期間： 2003.01.01～2006.02.24

<キーワード： 統合失調症>

朝日新聞

(統合失調症と向き合って：上) 息子の奇行に自責の念 / 静岡県

(統合失調症と向き合って：下) 自発を尊重、出口見えた / 静岡県

全 2 回 2005.11.28-2005.11.29 東京地方版 / 静岡

毎日新聞

[こころの隣人たち] 統合失調症を理解する = 高木俊介

全 12 回 2002.11.09-2003.02.01 東京朝刊 家庭

読売新聞

[健康&医療] 統合失調症とともに = 森実恵

全 26 回 2003.06.21-2004.12.26 大阪朝刊

[医療ルネッサンス] 統合失調症と生きる

全 5 回 2004.07.27-2004.07.31 東京朝刊

<キーワード： うつ病>

朝日新聞

うつ病 足立總一郎医師(宅配診療所) / 岐阜

全 5 回 2004.05.21-2004.07.02 名古屋地方版 / 岐阜

読売新聞

[心の悲鳴] 職場で広がるうつ病(連載)

2006.01.11 西部朝刊

[医療ルネッサンス] 産後うつ病

全 5 回 2003.02.18-2003.02.22 東京朝刊

[医療ルネッサンス] 産後うつ病・読者の反響

全 5 回 2003.03.26-2003.04.01 東京朝刊

<キーワード： アルコール依存症>

毎日新聞

特集：アルコール依存症治療を考える 香川・三光病院の市川院長に聞く

2005.09.16 大阪朝刊

読売新聞

[医療最前線] 第 3 部(3) アルコール依存症 = 多摩

[医療最前線] 第 3 部(4) 精神科救急 = 多摩

2003.09.11-2003.09.12 東京朝刊 (医療最前線の記事は期間中に 38 件あり)

<キーワード: 薬物依存>

毎日新聞

「回復」の場から]薬物依存と向き合う

全7回 2004.10.20-2004.10.29 地方班/京都

<キーワード: 人格障害>

朝日新聞

境界性人格障害: 星野仁彦(ストレスクリニック)/福島

全2回 2005.02.17-2005.02.24 東京地方班/福島

読売新聞

[医療ルネサンス]境界性人格障害

全5回 2003.08.12-2003.08.16 東京朝刊

[医療ルネサンス]続・境界性人格障害

全4回 2003.10.15-2003.10.18 東京朝刊

<キーワード: パニック障害>

毎日新聞

第4回大阪メンタルヘルスフォーラム:パニック障害と向き合う

2005.09.28 大阪夕刊 特集

<連載記事>

毎日新聞

「話ばさせて:ピリッとからっと」全21回 2004.11.26-2005.06.17 地方版/長崎

話ばさせて:ピリッとからっと	精神科医療のあり方 /長崎	2005.06.17
話ばさせて:ピリッとからっと	連鎖をとめて/6止 /長崎	2005.06.03
話ばさせて:ピリッとからっと	身近な人の死 /長崎	2005.05.27
話ばさせて:ピリッとからっと	住みやすい街へ /長崎	2005.05.13
話ばさせて:ピリッとからっと	うつ病と自殺 /長崎	2005.04.29
話ばさせて:ピリッとからっと	回復時期を決めないで/5/長崎	2005.04.22
話ばさせて:ピリッとからっと	自立生活 /長崎	2005.04.15
話ばさせて:ピリッとからっと	「療育」を知ってますか /長崎	2005.04.08
話ばさせて:ピリッとからっと	アルコール依存症と共依存 /長崎	2005.04.01
話ばさせて:ピリッとからっと	心の居場所/4 /長崎	2005.03.25
話ばさせて:ピリッとからっと	今を精いっぱい生きる /長崎	2005.03.18
話ばさせて:ピリッとからっと	ザ・チャレンジド /長崎	2005.03.04
話ばさせて:ピリッとからっと	暴れないアルコール中毒 /長崎	2005.02.25
話ばさせて:ピリッとからっと	親が変われば/3 /長崎	2005.02.18
話ばさせて:ピリッとからっと	障害者と仕事 /長崎	2005.02.04
話ばさせて:ピリッとからっと	県の支援センター開設 /長崎	2005.01.28
話ばさせて:ピリッとからっと	続・うつ病について /長崎	2005.01.21
話ばさせて:ピリッとからっと	自己肯定感 /長崎	2005.01.14
話ばさせて:ピリッとからっと	私の生きる道 /長崎	2004.12.10
話ばさせて:ピリッとからっと	障害者療育 /長崎	2004.12.03
話ばさせて:ピリッとからっと	うつ病と精神科 /長崎	2004.11.26

朝日新聞

「こころ元気ですか」 全 33 回 2002.08.24-2003.03.29 東京朝刊

パニック障害 高橋祥友(こころ元気ですか 男性編:8)	2003.03.29
自殺を予防するには 高橋祥友(こころ元気ですか 男性編:7)	2003.03.22
自殺を予防するには 高橋祥友(こころ元気ですか 男性編:7)	2003.03.22
自殺未遂 高橋祥友(こころ元気ですか 男性編:6)	2003.03.15
死にたいと言われた 高橋祥友(こころ元気ですか 男性編:5)	2003.03.08
中年危機 高橋祥友(こころ元気ですか 男性編:4)	2003.03.01
酒は百薬の長 高橋祥友(こころ元気ですか 男性編:3)	2003.02.22
体が発する赤信号 高橋祥友(こころ元気ですか 男性編:2)	2003.02.15
男はつらいよ 高橋祥友(こころ元気ですか 男性編:1)	2003.02.08
現代を生きるコツ 山崎英樹(こころ元気ですか 高齢者編:13)	2003.02.01
暴力に耐える娘 山崎英樹(こころ元気ですか 高齢者編:12)	2003.01.25
「うつ」にも意味 山崎英樹(こころ元気ですか 高齢者編:11)	2003.01.18
1割がうつ状態 山崎英樹(こころ元気ですか 高齢者編:10)	2003.01.11
悲劇繰り返さぬために 山崎英樹(こころ元気ですか 高齢者編:9)	2002.12.28
宅老所の茶の間で 村瀬孝生(こころ元気ですか 高齢者編:8)	2002.12.21
先生、お寺に帰る 下村恵美子(こころ元気ですか 高齢者編:7)	2002.12.14
元副社長、太郎さん 村瀬孝生(こころ元気ですか 高齢者編:6)	2002.12.07
読者の質問に答える 荘司理恵子(こころ元気ですか 女性編)	2002.12.04
親や夫がぼけた時 下村恵美子(こころ元気ですか 高齢者編:5)	2002.11.30
トメさん、92歳 村瀬孝生(こころ元気ですか 高齢者編:4)	2002.11.23
妄想が起きるとき 山崎英樹(こころ元気ですか 高齢者編:3)	2002.11.16
もの忘れ＝痴呆！ 山崎英樹(こころ元気ですか 高齢者編:2)	2002.11.09
「老い」は誰にも 山崎英樹(こころ元気ですか 高齢者編:1)	2002.11.02
自分の性に違和感 荘司理恵子(こころ元気ですか 女性編:13)	2002.10.26
衝動的に行動する 荘司理恵子(こころ元気ですか 女性編:12)	2002.10.19
長時間手を洗う 荘司理恵子(こころ元気ですか 女性編:11)	2002.10.12
食べて吐く 荘司理恵子(こころ元気ですか 女性編:10)	2002.10.05
男性が怖い 荘司理恵子(こころ元気ですか 女性編:9)	2002.09.28
声が出ない 荘司理恵子(こころ元気ですか 女性編:8)	2002.09.21
気力が出ない 荘司理恵子(こころ元気ですか 女性編:7)	2002.09.14
声が聞こえる 荘司理恵子(こころ元気ですか 女性編:6)	2002.09.07
買い物依存症 荘司理恵子(こころ元気ですか 女性編:5)	2002.08.31
パニック障害 荘司理恵子(こころ元気ですか 女性編:4)	2002.08.24

普及啓発における当事者の積極的参加とマスメディアによる支援に関する研究 研究協力報告書

研究協力者 原田 豊(鳥取県立精神保健福祉センター)
新井綾子(京都市こころの健康増進センター)
有海清彦(山形県精神保健福祉センター)
佐々木昭子(東京都立精神保健福祉センター)
細矢幸子(AC プランニング)
山崎正雄(高知県立精神保健福祉センター)
分担研究者 山下俊幸(京都市こころの健康増進センター)

A. 研究目的

平成 16 年 9 月、精神保健福祉対策本部から「精神保健医療福祉の改革ビジョン」が提示され、概ね 10 年後における国民意識の変革、精神保健医療福祉体系の再編の達成水準として、「精神疾患は生活習慣病と同じく誰もがかかりうる病気であることについての認知度を 90%以上とする」ことが目標とされており、精神疾患を正しく理解し、態度を変え行動するという変化が起きよう、精神疾患を自分自身の問題として考える者の増加を促すことが必要であるとされている。

国民意識の変革すなわち普及啓発の取り組みは、現在でも国、都道府県、精神保健福祉センター、保健所、市町村、日本精神保健福祉連盟、日本精神衛生会、精神保健福祉協会、日本精神科病院協会、全国精神障害者家族会連合会等、さまざまな組織・団体等が取り組んでいるが、その目標や戦略は必ずしも共有されておらず、個別の取り組みになっている。国民各層の意識の変革においては、マスメディアなどに当事者が自発的かつ積極的に登場し、その意見を述べることを期待されるが、当事者の力を積極的に活用するマスメディア側のガイドラインが示されるには至っていない。

本研究は、当事者活動を広く調査し積極的参加の実情とマスメディアが如何なる支

援効果を有しているかを探り、効果的な啓発活動のありようを考究するものである。

今回は、その一環として、各精神保健福祉センターが主催する研修会や啓発普及等、および精神保健福祉センターが技術支援や組織育成等において関与した研修会・交流会等において、当事者自身による普及啓発がどのような形で行われているのか、どのような効果が期待できるのか、一方で、どのような課題や問題点があるのか、マスメディアへの対応をどのようにしているのかについて、アンケート調査を実施した。

また、当事者が精神保健福祉センターや保健所等が主催する研修会等に参加している 2 か所の小規模作業所に、その状況や感想についてヒアリングを行った。

B. 研究の対象と方法

1) 全国精神保健福祉センターを対象に、平成 16 年度に各精神保健福祉センター(都道府県・指定都市の主催も含む)が主催、もしくは技術支援、組織育成等で関与した研修会等(ボランティア講座、家族会研修会、市民向けの講演会等)において、当事者が何らかの普及啓発活動を行ったものについて、アンケート調査を実施した。各精神保健福祉センターにアンケート用紙を郵送にて配布(平成 17 年 2 月)し、各担当者が記載後、返送し集計を行った。(資

料1, 2: 発送アンケート用紙参照)

2) 当事者が精神保健福祉センターや保健所等が主催する研修会等に参加しているA県内の2か所の小規模作業所に、本研究の趣旨について説明をした上で、参加した状況や感想について、A県精神保健福祉センタースタッフにより下記の項目を中心にヒアリングを行った。

1 これまでに普及啓発のどんな場面に参加されましたか?

(1) 講演会・研修会等聴衆の面前で行うものに参加されたことがありますか?

①どのようなものに参加されどのような役割でしたか?

②参加されるきっかけはなんでしたか?

③参加されてどのように感じましたか?

(2) テレビ・新聞などマスメディアによるものに取り上げられた事がありますか?

①何の媒体にどのように取り上げられましたか?

②とりあげられたきっかけはなんでしたか?

③そのときに氏名や顔写真などが公表されましたか?

④とりあげられてどのように感じましたか?

2 氏名や写真などが公表されることについてはどう思われますか?

3 普及啓発に関し、今後より多くの当事者の方が積極的に参加するためにはどのような事が必要だと思われますか?

4 普及啓発に関し、今後マスコミ報道に望むことは何ですか?

5 その他普及啓発全般に関して望む事は何か?

C. 研究結果

1) 精神保健福祉センターアンケート調査について

精神保健福祉センター63所中45か所

より、224事業について回答を得た(3月12日時点)。(資料3: アンケート結果)

1. 事業名

今回のアンケートでは、統合失調症などを中心とした内因性の精神疾患に基づく精神障害だけではなく、「ひきこもり」やアスペルガー症候群やADHD等の「発達障害」、アルコール・薬物等の依存に関するもの(以下、「依存」)も含まれていた。

224事業中、ひきこもりに関するもの15事業、発達障害に関するもの5事業、アルコール、薬物依存等に関するもの51事業であり、これらをのぞいたものが153事業であり、それぞれについても結果を記載した。

なお、親の会・家族教室など家族を対象としたもの28事業、ボランティア講座12事業、バレーボール大会を初めとしたスポーツ大会27事業であった。

2. 主催、精神保健福祉センターの立場

今回は、各精神保健福祉センター(都道府県・指定都市の主催も含む)が主催、もしくは技術支援、組織育成等に関与した研修会等を対象としたため、全体の3分の2は精神保健福祉センター主催のものである。とくに、ひきこもりや発達障害を対象としたものは、大半が精神保健福祉センター主催となっている。精神保健福祉センターとしての立場は、普及啓発、組織育成、教育研修などが大半である。

3. 対象

対象としては、当事者がもっとも多く、これに行政関係や精神保健福祉職員、住民一般、医療関係が多く見られる。

4. 参加当事者、役割

参加当事者は、個人としての参加と団体としての参加が、半々であるが、ひきこもりや発達障害では個人としての参加が多く、依存では団体としての参加が多い。

当事者の役割は、体験発表・トークがもっとも多く、講師やパネラー、グループ討議への参加などが見られる。作品展示、製品販売、模擬店などは複数回答が多く、これらはイベント参加のものが多く、ひきこもりや発達障害、依存ではあまり見られていない。

5. 当事者参加に対する参加者（当事者以外）の反応や意見

非常に良い、良いが大半を占めている。

6. 参加した当事者の意見など

「参加して良かった」が半数以上を占めるが、「参加してあまり良くなかった」との意見もみられる。具体的な内容については、事業内容別、当事者の役割別に記載（資料4）している。

7. マスメディアへの広報など

224事業中、およそ半数の事業で積極的に広報、もしくは一般的な広報を行っている。一方で、92の事業では特に広報は行われていない。

これに関して取材があったのは49事業であり、事前情報提供したのものに関しては、およそ3分の2が取材を受けている。

マスメディア等への掲載の多くは、新聞掲載であり、この他に、行政広報物や機関広報物への掲載が多く見られる。

また、「マスメディアに対する当事者の反応や意見」「マスメディアの取材により問題となったこと」については、整理検討中のため、次年度に報告する。

2) 当事者へのヒアリングについて

実施日：平成18年3月9日

回答者：（経験者）4人、（その他）8人 ※2作業所で聞き取り

1 これまでに普及啓発のどんな場面に参加されましたか？

（1）講演会・研修会等聴衆の面前で行うものに参加されたことがありますか？

① どのようなものに参加されどのような役割でしたか？

（A）作業所の事や体験談などを研修会などで発表した。色んなところで発表しているが、原稿書きが意外と大変でいつも苦労している。しかし、いつも楽しくやっており、みんな優しい人だった。いつも原稿を書いて発表するが、原稿書きは3日くらい悩んで書き上げる。

（B）交流会での体験発表と講師と語る会での対談。

※他に、紙人形の折り方など教えたり、いろんな人にあげたり、5年間で3,000枚作成した。

（C）作業所での講演会やボランティア講座での自分の事や家族のことなどを発表。原稿を書いて発表したが、作文が難しい。

（D）講演会での発表、一般向けシンポジウムでのシンポジスト（4名によるシンポジウム）。話す前などは自分で話したい事などをメモして、作業所長に相談するなどした。

②参加されるきっかけはなんでしたか？

（A）通所中の指導員の勧めにより。

（B）参加のきっかけは覚えていない。

（C）誰かの薦め、依頼により。

（D）通所中の作業所長の勧めにより。他にされる人がいないならという事で受けた。本心はできれば避けたかった。

③参加されてどのように感じましたか？

（A）発表する前は上手くいくかどうかと思ったが、発表後はやって良かったと思う。原稿を読む形式なので、参加されている人の顔はほとんどみないが、拍手が大きいのはうれしい。

（B）恥ずかしかった。発表したことは良かったかなとは思っている。

（C）恥ずかしかった。話してもいいけど何を話したらよいか悩んだ。

（D）基本的には、公の場に立つという事、

皆の前に立つという事はうれしくない。皆に自分が障害者だという事を公表することになる。障害者だと言うことは自分にとってうれしいことではなく、どちらかというところ知られたくないという気持ちは多少ある。発表はしたが、そのことを気にしなければ、それなりに……。一番最初は抵抗があり、自分でなくても他の人がしてくれたらと思った。少し慣れてきたら、悪い事ではない（こういう言い方しかできないが）とも思えるようになった。自分たちを知ってもらうという意義は理解できるので、意味はある事だろうと思うが、今でも抵抗はある。発表した後、どれだけ自分自身のためになったとは思わないが、終了後に周りの人から良かったよと声をかけられた事により、それは良かったかなと思うが、それ以上に、自分が成長したとかそこまでは思わない。

(2) テレビ・新聞などマスメディアによるものに取り上げられた事がありますか？

①何の媒体にどのように取り上げられましたか？

(A) 作業所の卓球大会の時にケーブルテレビからインタビューを受けた。その他新聞社から依頼があり寄稿したことがある。

(B) 交流会の場面を主催者が写真に撮っておられたことはあるが、その後公表等はなし。

(C) なし。

(D) 福祉の店のオープニングセレモニーの際に精神障害者の代表として参列していた時に、市報に掲載された。

(他) 作業所の卓球大会にテレビ局が撮影にきていた。

②とりあげられたきっかけはなんでしたか？

(A) 依頼を受けて。

(B) なし。

(C) なし。

(D) 出席したセレモニーで写真を撮られて市報に掲載するための写真を撮影されておりたまたま自分が分かるように写っている写真が掲載された。

(他) 自分で新聞に投稿したことがある。卓球大会の取材にテレビ局がきていた。

③ そのときに氏名や顔写真などが公表されましたか？

(A) 氏名が本名ででたが、別に気にならない。病院にいる時から、本名が公表されることは気にならなかった。

(B) なし。

(C) なし。

(D) 福祉の店のオープニングセレモニー出席の時の顔写真が市報に掲載された。

(他) うれしい。(以前から度々経験があるので) 写りがよければ問題ない。氏名が公表されることも問題ない。

④ とりあげられてどのように感じましたか？

(A) うれしく思った。

(B) なし

(C) 感動した。

(D) 市報を見た周囲の人が「載っていたね」と言われたが、個人としてはうれしくない。公になっちゃったなあという気持ちがあった。講演会などは、障害者の関係者の人が出席されている事が多いと思うが、市報などは一般の方も多くみており、あまりうれしくなかった。

(他) 卓球大会の様子がテレビ放映された時は、卓球大会がとても楽しく、そのときに撮影されていることは意識していなかった。知らない間に撮影されていたが、それがテレビで放映されたときはうれしかった。

2 氏名や写真などが公表されることについてはどう思われますか？

(A) 何とも思わない。

(B) あんまり掲載等されたくない。(今のところそのような経験がないので) あま

り分からない。

(C) なし

(D) 一般の人が多くみるようなもので公になることは抵抗がある。

(他) うれしい。問題ない。※その他黙っている人もあり。

3 普及啓発に関し、今後より多くの当事者の方が積極的に参加するためにはどのような事が必要だと思われますか？

(A) 緊張するとは思いますが、数をこなせば慣れてくるので、他の人にも挑戦してもらいたい。1回成功すると後は気が楽になる。

(B) あまり考えた事がないが、皆が発表されたら良いと思う。

(C) みんなが発表される場所に参加する。努力する。

(D) 自分自身はあまり経験はないが、差別や垣根がなくなればとは思う(差別について周りから聞くので・・・)。一般の方の理解がもっと深まれば、もっと皆が自分の意見、気持ち、希望が言えるのでは。もっともそういう場が少ないが・・・。初めての機会はある程度理解されている人の前であれば抵抗が少ないかと思う。

(他) 勇気がないので発表などしたくない。

恥ずかしい。

発表などすることは良い事だと思う。率直な意見を言えるのは良いと思う。

しない方がよいと思う。言いたがらない人もあると思う。

別に率直な意見など発表する事は良いと思うが、それにより、依頼がどんどん増えすぎるのは困る。日常生活に支障がでるようでは困る。連絡先などが公表されなければ解決するか・・・。

4 普及啓発に関し、今後マスコミ報道に望むことは何ですか？

(A) 精神障害者の事件やあまりよくない事がよくとりあげられるが、イベントなどを通じて精神障害者への偏見や差別が少し

でもなくなると良いと思うので、これからも精神障害者の事を取り上げて欲しい。たくさん取り上げてもらって、多くの人に理解してもらえたらいいと思う。

(B) 精神障害者は悪く見られていると思うが、統合失調症などの病気があっても、根は優しい人だと思う。そのあたりを取り上げて欲しい。

(C) そんなに希望はないが、取り上げてもらえるように頑張りたい。

(D) 氏名や顔はできればふせたい。顔がわからないような撮り方であればよい。障害者の人でも自分で公表して活動されている人はあり、公表など許せるようになっていけるだろうが、自分は隠せるものなら隠したいという気持ちがある。これまでたどってきた人生があり、友達、同級生などあり、これまで比較的理解のある人に囲まれてきたので、公表されても許せない事はないけど、できれば隠したいという表現になる。他の障害者の方のためにもなることであればという気持ちはあるが(自分が掲載されるなどは)できれば避けたい。

(他) 顔が出ることはテレビ写りや写真写りが悪いので拒んでいる。(本物は良いのにと笑いながら)

その他、言葉使いについては、同じ言葉でも世代間によって意味合いが違うので注意してもらいたい。特にラジオでは誤解されやすいと思う。

マスコミの影響は非常に強く、私生活をおびやかされる事も多々あると思う。自分はおつつぶれる事もあり、2～3日寝込む事もあり、風呂も入れず、ひげもそれず、普段出かけているときの顔と全く違い、それが二重人格と思われても困る。家でおとなしくしておきたい時などそっとしてもらるように配慮して欲しい。

5 その他普及啓発全般に関して望む事は何か？

(A) 多くの人に理解してもらいた。もっと積極的に普及啓発に取り組んで欲しい。障害者の人も一般の人も混じって交流する機会が増えたらうれしい。

(B) 難しい。分からない。

(C) なし。言うことなし。ただ、現在、頑張っているがお金がないと困る。

(D) ぱっとみて障害者だと分からなかったら(汚い服装をしていたり)、就業の面でも変わると思う。精神障害になると、何よりも収入がなくなる。採用してもらえなかったり、長続きしなかったりすることが実際にある。障害者自身も周囲も見た目判断されないようにという事が必要だと思う。

差別されず、収入もちゃんとあってという状況になれば、社会の中で一般の人の中にとけ込めると思う。今は健常者の保護のもとで護られているという面がある。収入ひとつとっても、20歳すぎたら年金がもらえ、それは税金からでている訳である。そういう一面もあると思っている。自分に自信がもてるようになったら、例えば仕事で社会参加するなどがあれば、自信をもって、もっと自分の意見を言うことができるようになると思ひ、それが普及啓発につながるのではないかと思う。作業所の中からコーヒショップにもでるようになって、知り合いに出会う機会が増え、できれば出たくないという気持ちもあるが、収入が増えること、また接客をすることや、お客さんと話すことにより馴染みの関係になり、これまで作業所の中だけにいた自分とはちょっと違う。悪い面ばかりでないという事もみてまた頑張ろうかなと思う。ただし、自分の経済状況が良く、余裕のある生活をしているならでないと思う。看板に福祉の店とあるので、同級生などがやってきたときに、何でここにいるのかと問われたら、自分は障害者なんだと正直に言わないとい

けないという気がする。そうなると、障害者だと知られる。今は自分のぱっと見だけでは、障害者だと分からないと思うが、知られるよりは知られたくないという気がする。

(他) このような病気になった人は内気でおとなしい人が多い。

偏見をなくすようにして欲しい。子供達が素敵だなど思うような取り上げ方、また結婚相手の対象としてみてもらえるよう上手く取り上げてもらえれば良いと思う。

平等にして欲しい。

D. 考察と結論

平成16年9月、精神保健福祉対策本部から「精神保健医療福祉の改革ビジョン」が提示され、これまでも、さまざまな組織・団体等が普及啓発等に取り組んでいるが、個別の取り組みにとどまっている。国民各層の意識の変革においては、マスメディアなどに当事者が自発的かつ積極的に登場し、その意見を述べる事が期待されるが、当事者の力を積極的に活用するマスメディア側のガイドラインが示されるには至っていない。今後、当事者活動を広く調査し積極的参加の実情とマスメディアが如何なる支援効果を有しているかを探り、効果的な啓発活動のあり方を考究することが求められる。今回、当事者活動が、どのように普及啓発活動として行われているかを知るために、各精神保健福祉センターが主催する研修会や啓発普及等、および精神保健福祉センターが技術支援や組織育成等において関与した研修会・交流会等における当事者自身による普及啓発について調査を実施した。

また、当事者が精神保健福祉センターや保健所等が主催する研修会等に参加している2か所の小規模作業所に、その状況や感想についてヒアリングを行った。

アンケート調査は、各精神保健福祉センターにアンケート用紙を郵送にて配布し、各担当者が記載後、返送し集計を行い、63所中45か所より、224事業について回答を得た。

ほとんどの精神保健福祉センターにおいて、当事者による普及啓発活動が行われていた。また、当事者も、統合失調症などを中心とした内因性の精神疾患に基づく精神障害だけではなく、「ひきこもり」やアスペルガー症候群やADHD等の「発達障害」、「依存」も含まれ、当事者活動による普及啓発はさまざまな場面に広がりを見せている。

今回は、各精神保健福祉センター（都道府県・指定都市の主催も含む）が主催、もしくは技術支援、組織育成等で関与した研修会等を対象としたため、全体の3分の2は精神保健福祉センター主催のものである。とくに、ひきこもりや発達障害など、近年課題となっているものについては精神保健福祉センターが主導での開催である。

精神保健福祉センターとしての立場は、普及啓発、組織育成、教育研修などが大半である。

対象としては、当事者がもっとも多く、これに行政関係や精神保健福祉職員、住民一般、医療関係が多く見られる。これは、ピアカウンセリングや当事者団体などへの働きかけに加えて、スポーツ大会などの当事者同士の交流やイベント参加などの活動によるものと思われる。対象として、住民一般よりも、行政関係や精神保健福祉職員の方が多く見られたのは、精神保健福祉センターの業務の役割が、技術支援などを中心にしていることにあるとも考えられ、住民一般への普及啓発は、むしろ市町村や関係団体などの主催によるものが多いと考えられる。

参加当事者は、個人としての参加と団体

としての参加が、半々であるが、ひきこもりや発達障害では個人としての参加が多く、依存では団体としての参加が多い。依存では、すでに、断酒会やダルクなどのグループが活動していることにもよる。

当事者の役割は、体験発表・トークがもっとも多く、講師やパネラー、グループ討議への参加などが見られる。当事者による普及啓発のもっとも大きな効果は、当事者自身の体験談によるところがある。また、作品展示、製品販売、模擬店などは複数回答が多く、これらはイベント参加のものが多く、多くの媒体を通しての障害者への理解を求めるものである。これらのイベント参加は、以前からも見られていたが、近年では、当事者自身が登場することが多く、普及啓発に加え、当事者自身の自信にもつながっているものと考えられる。これらのイベント活動は、まだまだ組織化されていないひきこもりや発達障害、依存ではあまり見られていない。

当事者参加に対する参加者（当事者以外）の反応や意見や当事者自身の意見は、良好であり、今後も参加したいとの意見も多い。

当事者は、参加することにより、多くの人に知ってもらったと言うことに良かったと回答しているものが多く、普及啓発に対して、当事者自身がその効果を上げている。一方で、これらの参加は、当事者自身が自信を持てた、話を聞いてもらって良かったなどの効果を上げている。

マスメディアへの広報は、およそ半数の事業で積極的に広報、もしくは一般的な広報を行っている。一方で、92の事業では特に広報は行われていない。これに関して取材があったのは49事業であり、事前情報提供したものに関しては、およそ3分の2が取材を受けている。マスメディア等への掲載の多くは、新聞掲載であり、この他に、行政広報物や機関広報物への掲載が多

く見られる。

マスメディアに対する当事者の反応や意見、マスメディアの取材により問題となったことはさまざまであり、今後、これらの問題を整理して、そのあり方について検討していくことが求められている。

また、今回、精神保健福祉センターや保健所等の研修会等に参加経験のある当事者が通う小規模作業所にヒアリングを行った。

おおむね、精神障害に対して正しく理解してほしいなどの意見が見られたが、マスメディアへの個々人の参加に関しては、抵

抗感の強い者、そうでない者など異なっており、一律に考えるのは難しく、個々の意見を取り入れた自発的、かつ、積極的な当事者自身による普及啓発のあり方を考えていく必要がある。

今後は、これらの結果を参考に、マスメディア自身がどのように考えているのかを調査し、より効果的な、そしてよりプライバシーにも配慮した普及啓発のあり方を検討していくことが求められる。

平成17年2月14日

都道府県・指定都市精神保健福祉センター長 様

全国精神保健福祉センター長会
厚生労働科学研究 担 当
鳥取県立精神保健福祉センター
所長 原田 豊「普及啓発における当事者の積極的参加とマスメディアによる支援に関する研究」
についての調査ご協力をお願い

この度、全国精神保健福祉センター長会では、平成17年度厚生労働科学研究の一つとして、「普及啓発における当事者の積極的参加とマスメディアによる支援に関する研究」（担当：佐々木、原田、山崎、分担研究：山下）に取り組むこととなりました。

今年度は、その一環として、各精神保健福祉センターが主催する研修会や啓発普及等、および精神保健福祉センターが技術支援や組織育成等において関与した研修会・交流会等において、当事者自身による普及啓発がどのような形で行われているのか、どのような効果が期待できるのか、一方で、どのような課題や問題点があるのか、マスメディアへの対応をどのようにしているのかについて、アンケート調査を実施することとなりました。

アンケートの対象は、昨年度（平成16年度）に各精神保健福祉センター（都道府県・指定都市の主催も含む）が主催、もしくは技術支援、組織育成等で関与した研修会等（ボランティア講座、家族会研修会、市民向けの講演会等）において、当事者が何らかの普及啓発活動を行ったものです。

今回の調査は、回数を調べるのではなく、どのようなタイプの取り組みがあるのか、どのような問題点があるのかを知ることが目的としています。また、当事者同士の交流会（作業所交流会や地域の当事者の交流会など、自治体単位や各地域単位の比較的大きな規模のもの）についてもご記載ください。なお、全国精神障害者バレーボール大会の地区予選が開催されている自治体は、その大会についてのご回答もお願いします。いただきました回答は、都道府県・指定都市等が特定できない形で集計し、報告書にまとめ結果を報告いたします。ご多忙の中申し訳ありませんが、同封の返信用封筒にて、3月3日(金)までにご回答をお願いします。

なお、本研究は「精神障害者の正しい理解を図る取り組みの組織的推進に関する研究」（主任研究者 保崎秀夫）の分担研究の一環として行われるものです。

アンケート調査に関する問い合わせ先

鳥取県立精神保健福祉センター

所長 原田 豊

電話 0857-21-3031

FAX 0857-21-3034

E-mail harada-y@pref.tottori.jp

(資料2) 当事者による啓発普及に関するアンケート調査

～各精神保健福祉に関する関係機関が実施する研修会・交流会等について～

(_____) 精神保健福祉センター 事業番号

担当者 _____ (職名) _____

アンケートは、各事業ごとにご記入ください(4ページ)。アンケート用紙は5部同封してありますが不足の場合は、申し訳ありませんが、用紙をコピーしてご回答頂きますようお願いいたします。

具体的事項を 内に、記載し、該当する番号に○をつけてください。

1. 事業名 開催 平成()年()月()日

具体的に…

2. 主催

具体的に…

- | | | |
|-------------|---------------|-------------|
| 1. 都道府県指定都市 | 2. 精神保健福祉センター | 3. 精神保健福祉協会 |
| 4. 保健所 | 5. 市町村 | 6. 社会福祉協議会 |
| 7. 医療機関 | 8. 社会復帰施設等 | 9. 当事者団体 |
| 10. 関係者団体 | 11. その他 | 12. 不明 |

3. 精神保健福祉センターの立場

具体的に…

- | | | | |
|-------------|---------|---------|---------|
| 1. 技術支援 | 2. 教育研修 | 3. 普及啓発 | 4. 調査研究 |
| 5. 精神保健福祉相談 | 6. 組織育成 | 7. その他 | 8. 不明 |

4. 対象

具体的に…

- | | | |
|-------------|-----------------------|---------|
| 1. 住民一般 | 2. 住民(特定; 民生委員、保護司など) | |
| 3. 精神保健福祉職員 | 4. 医療関係 | 5. 行政関係 |
| 6. マスメディア | 7. 当事者 | 8. その他 |
| 9. 教育関係 | 10. 不明 | |

5. 参加当事者

具体的に… (例：作業所として劇をした、ボランティア講座の講師をした)

1. 個人として
2. 団体として (例；作業所、当事者グループなど)
3. その他
4. 不明

6. 当事者役割

具体的に…

1. 講師
2. パネラー
3. グループ討議への参加
4. 劇
5. 演奏
6. 体験発表・トーク
7. 作品展示
8. 製品販売
9. 模擬店
10. その他
11. 不明

7. 当事者参加に対する参加者 (当事者以外) の反応や意見

具体的に…

1. 非常に良い
2. 良い
3. ふつう
4. 良くない
5. その他
6. 不明

8. 参加した当事者の意見など。カッコ内に具体的なご意見をご記入下さい。

1. 参加して良かった
()
()
2. 参加してあまり良くなかった
()
()
3. 今後も参加したい
()
()
4. あまり参加したくない
()
()
5. その他
()
()

9. マスメディアへの広報など

具体的に…

1. 積極的に広報（取材依頼した、チラシを配布した等）
2. 一般的な広報
3. 特に広報せず
4. その他
5. 不明

10. マスメディアへの当日対応（主催者等からのマスメディアへの情報提供の有無を含む）

具体的に…

1. 事前情報提供なし・マスメディア取材なし
2. 事前情報提供なし・取材あり
3. 提供なし・取材あるもお断り
4. 事前情報提供あり・取材なし
5. 提供あり・取材あり
6. その他
7. 不明

設問 10. で「取材あり」と回答された場合は、設問11, 12, 13に回答下さい。
「取材なし」の場合は、設問14にお進み下さい。

11. マスメディア等への掲載など

具体的に…

1. テレビで放映
2. 新聞に掲載
3. ラジオで放送
4. 雑誌に掲載
5. 行政広報物
6. 機関広報物
7. その他
8. 不明

12. マスメディアに対する当事者の反応や意見

具体的に…

13. マスメディアの取材により問題となったこと

気になったこと、課題などあれば、自由に記載ください。

※参加者名簿への氏名記載、参加者の顔写真、事前注意事項など

具体的に…

14. その他、ご自由にご意見をお聞かせ下さい。

具体的に…

・・・・・・・・以上です、ありがとうございました。
今回のアンケートは、各事業ごとに、記載をお願いしています。
他にも回答の事業がある場合は、次の用紙にご記載をお願いします。